

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・11 vol.434

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



矢巾キャンパスで行われた医大祭 ～オーケストラ部による演奏会～

(写真撮影：10月14日(日)、(関連記事：P4))

おもな内容

- 特集 看護外来の開設について 看護部長 及川 史智子
- トピックス 大学院薬学研究科の設置が認可されました
- 表彰の栄誉 第6回日本緩和医療薬学会において緩和ケアチームの取り組みが「優秀発表賞」を受賞しました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.42 ニューロモデュレーション治療
脳神経外科学講座 助教 西川 泰正



看護外来の開設について



看護部長 及川 史智子

1 看護外来開設の背景

医療技術の進歩に伴い、高度な治療や侵襲の高い手術・検査が行われるようになり、外来で継続治療や管理が必要になっています。また、慢性疾患の患者さんは長期間、病気と向き合いながら日常生活を送っていかねばなりませんので、通院の継続が重要となっています。外来にはこのような患者さんに対して切れ目のない看護と個々のニーズに応じた専門性の高い看護を提供することが求められております。

当院には、特定の看護分野において熟練した看護技術、知識を修得した看護師がおり、関連する部署でそれぞれ専門性を発揮しています。また、ニーズが高いリンパ浮腫ドレナージのできる看護師を育成し、昨年1名が医療リンパドレナージセラピストの資格を取得しました。これを機に患者さんのプライバシーを配慮し落ち着いた環境でコミュニケーションをとりながら、専門的な知識・技術を持っている看護職が患者さんを支援すべきであるとの考えから、本年7月23日に看護外来が開設されました。

開設にあたり、病院長はじめ関係各位のご理解とご支援をいただきましたことに深く感謝いたします。



2 看護外来の目的、概要

看護外来の目的は、専門的な知識・技術を持った看護師や助産師が医師と連携を取り、患者さんとそのご家族の療養上の問題について支援し、QOL（生活の質）向上につなげることです。

看護外来は原則、当院に通院している患者さんとそのご家族が対象で、通院している当該科をとおしての予約制となっています。

今回は9分野を医療リンパドレナージセラピスト、慢性疾患看護修士課程修了者、糖尿病療養指導士、がん専門看護師、各分野の認定看護師、助産師が担当しています。



◆看護外来の様子



リクライニングシートを備えた助産外来



水まわりを備えたストーマケア処置室



リンパマッサージ

◆分野別看護外来日、支援内容等

分	野	窓 口	曜 日	内 容
ストーマ・排泄ケア（保険診療内）		外科	(月)	・ストーマ、尿路ストーマ増設患者に対するケア、教育、指導 ・便、尿失禁相談 ・精神的、社会的側面に対する相談、支援、社会資源の活用方法
		泌尿器科	(木)	
		小児外科	(火)午後	
		小児科	(水)午後	
リンパ浮腫外来（自費）		外科	(月)～(金)	・続発性に発症するリンパ浮腫の改善のための複合的理学療法 ・リンパ浮腫の抑制予防のための指導、セルフケアの方法
		産婦人科		
		泌尿器科		
		形成外科		
肝疾患看護（保険診療内）		消化器・肝臓内科	(火)・(木)	・肝疾患患者の在宅療養支援、相談、治療の自己決定支援、療養生活支援、社会資源の活用 ・肝臓病教室
糖尿病看護（保険診療内）	・フットケア	糖尿病・代謝内科	(月)・(火)午前 (水)・(金)午後	・フットケア（足・爪のケア）
	・療養支援	糖尿病・代謝内科	(金)午後	・糖尿病に関する相談、療養上の相談 ・自己血糖測定・インスリン自己注射指導
がん看護（無料）		看護外来	(火)午後	・がんと上手に付き合うための情報提供及び相談
助産師外来（自費、無料）		産婦人科	(月)～(金) 第1・4(土)	・母親学級、両親学級、乳房ケア（自費） ・分娩方法についての相談、育児指導（無料）
新生児・小児看護（保険診療内・無料）		小児科	(水)午後	・気管切開、在宅酸素療法、吸引、酸素療法、人工呼吸器装着 ・栄養管理に関する療養相談と技術指導（保険診療内） ・NICUを退院した児の育児相談（無料）
集中治療部に関する相談（無料）		看護外来	(金)午後	・集中治療部の入室に係わる相談
心肺蘇生法の体験（無料）		看護外来	第4(土)	・BLS講習会

※ストーマ・排泄ケア、リンパ浮腫外来は専従の看護師が担当しますが、他の分野は病棟・外来の看護師が兼務します。

3 医師との連携

リンパ浮腫外来及びストーマ・排泄ケア、フットケアは医師との連携が不可欠です。今回、リンパ浮腫外来を始めるにあたっては、関連する診療科の医師と検討した運用フローに沿ってすすめております。

※混合診療にならないように、リンパ浮腫外来受診日を設定し、医師の治療や処方が必要な場合は、保険診療に切り替えます。

4 今後の展望

- ◇リンパ浮腫外来は、ニーズが高いので今後もセラピストを育成し、マンパワーを確保していきたいと思っております。
- ◇現在は当院に通院している患者さんやご家族が対象ですが、将来分野によっては、対象者の幅を広げ期待に応えられる看護外来を目指していきたいと思っております。
- ◇患者さん・ご家族のニーズや医療の現状を踏まえながら、看護の専門性を活かした看護外来の分野を検討し発展させていきたいと考えています。

● 理 事 会 報 告 ●

■ 9月定例（9月24日開催）

1. 次期薬剤部長の選任について
 薬剤部長 工藤 賢三（新任）
 （発令年月日 平成25年4月1日付）
2. 教育職員の定員に関する規程の一部改正について
 統合基礎講座の講座内組織変更に伴う一部改正
 （施行年月日 平成24年10月1日）
3. 平成25年度事業計画書方針について
 平成25年度の事業計画策定にあたっては、教育・研究・診療を通して岩手県の医療の復興を目指すとともに、附属病院移転整備及び内丸地区再整備の大事業完遂に向けて経営基盤の強化を図りながら、重点事業を遂行することを基本方針とした。
4. 平成25年度予算編成方針について
 平成25年度の予算編成にあたっては、附属病院移転整備を最優先として積立計画を確実に実行し、他の事業等については年度予算の範囲内で実行すること、また、医療収入等の増収に努めるとともに外部資金の積極的な獲得を図り、教育・研究・医療活動が円滑に遂行できるよう配慮し、可能な限り圧縮した予算を目指すことを基本方針とした。
5. 組織規程（教育研究組織機構図）の一部改正について
 いわて東北メディカル・メガバンク事業と連携し研究を実施するため、医歯薬総合研究所に生体情報解析部門を設置
 （施行年月日 平成24年10月1日）

大学院薬学研究科の設置が認可されました

平成25年4月1日からの開設に向けて手続きを進めていた大学院薬学研究科は、11月8日付で文部科学大臣より設置認可を受けました。専攻、修業年限等は次のとおりです。 ※お問い合わせは、薬学部教務課（内線5011～5016）まで

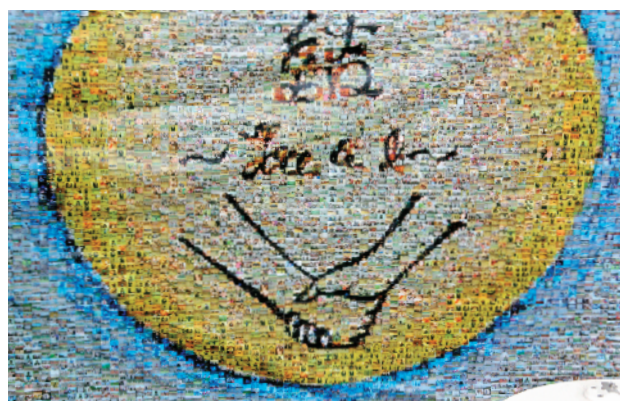
◆岩手医科大学大学院薬学研究科

- 4年制博士課程（医療薬学専攻）
入学定員3名 学位：博士（薬学）
- 2年制修士課程（薬科学専攻）
入学定員3名 学位：修士（薬科学）

◆開設日 平成25年4月1日

入学試験日程		
	4年制博士課程（医療薬学専攻）	2年制修士課程（薬科学専攻）
募集人員	3名（前期後期合わせて）	3名（前期後期合わせて）
出願期間 （消印有効）	【前期】平成25年1月4日（金）～平成25年1月18日（金） 【後期】平成25年3月1日（金）～平成25年3月15日（金）	
試験日等	【前期】平成25年1月26日（土）9：00～（矢巾キャンパス） 【後期】平成25年3月23日（土）9：00～（矢巾キャンパス）	

医大祭 ～結「YOU & I」～が開催されました



エントランスホールに掲げられたメインテーマ

10月13日（土）、14日（日）の2日間にわたり、矢巾キャンパスにおいて医大祭が開催されました。今年のメインテーマは「結～You & I～」と題され、人と人との間にある絆を結び、今まで以上に強くしたいという願いが込められました。このメインテーマは、一枚一枚の写真を組み合わせた見事なデザインによりエントランスホールに掲げられ、来場者から好評を博しました。

開催中は、各学部による学術展示コーナーや薬学部の模擬実験コーナーが設置されたほか、模擬店、さんさ踊り、軽音部のライブなどが会場を盛り上げ、両日ともに多数の市民の方々や大学関係者で賑わいました。



茶道部による学生茶屋



中庭のステージで行われたさんさ踊り



中庭に出店された模擬店



模擬実験コーナー



フリートークコーナー



各学部の学術展示

第45回動物慰霊祭が行われました



第45回動物慰霊祭が、10月4日(木)矢巾キャンパス大堀記念講堂において、本学関係者約100名のほか、医学部・歯学部・薬学部の学生約300名が参列して厳かに執り行われました。

式では、昨年度実験に供された動物6,034霊に対する黙祷の後、小川学長(代読:祖父江副学長)及び学生を代表して薬学部4年の田沼孝仁さん(左写真)から慰霊のことばが捧げられました。続いて、参列者による献花が行われ、医学・歯学・薬学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈りました。

医療専門学校歯科衛生学科の戴帽式が行われました

10月6日(土)午前11時から、医療専門学校4階講堂(上ノ橋校舎)で平成24年度の歯科衛生学科戴帽式が行われました。戴帽式は、これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新たにすることで、今年度は34名が式に臨みました。

式では、戴帽生の呼名に続き、教務主任から一人ひとりにキャップがのせられ、壇上の戴帽生全員で誓いのことばが唱和されました。厳かな空気が満ちる中、戴帽生を代表して菊池美里さんが謝辞を述べ、新たな決意を胸に歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



本学研究グループがストレスに伴うシナプス形成障害の分子メカニズムを解明しました



記者会見の様子：(中)神経科学研究部門 祖父江憲治 部門長(副学長・医歯薬総合研究所所長)、(右)神経科学研究部門 真柳平 講師、(左)神経精神科学講座 福本健太郎 助教

医歯薬総合研究所神経科学研究部門を中心とする本学研究グループは、ストレス条件下で増加するストレスメディエーター(グルココルチコイド)によって引き起こされるシナプス形成障害を解析し、その分子メカニズムを世界で初めて明らかにしました。

平成24年10月17日(水)には、本研究内容に関する記者会見が行われるとともに「The Journal of Neuroscience」の電子版に研究論文が掲載され、特集記事にもなりました。

本研究報告により、今後ストレスに起因する精神疾患の発症メカニズムの解明が期待されます。

※研究の詳細は、大学ホームページに掲載しています。

URL <http://www.iwate-med.ac.jp/news/n5-research/12102201-kikaku/>

硬式野球部の北東北大学秋季リーグ戦 二部リーグ昇格が決定しました

本学の硬式野球部は、北東北大学秋季リーグ戦三部リーグで優勝を果たし、その後行われたノースアジア大学との入れ替え戦を2勝1敗と勝利した結果、見事来季からの二部リーグ昇格を決めました。これは現行の三部リーグ制となつてからは初の快挙となります。

日刊スポーツ東北版(平成24年10月9日)には、硬式野球部の活躍ぶりとともに「医療もチーム医療の時代、必要な団結力を野球のチームプレーで養うのが目的」と部員の力強いコメントが大きく報じられました。今後益々の硬式野球部の皆様のご活躍とともに、来季の一部リーグ昇格が期待されます。



表彰の栄誉

第6回日本緩和医療薬学会において 緩和ケアチームの取り組みが「優秀発表賞」を受賞しました

この度、第6回日本緩和医療薬学会（10月6日、7日に神戸市にて開催）において、緩和ケアチームの取り組みが優秀発表賞を受賞しました。

現在、入院がん患者の疼痛管理に、経口麻薬剤を使用することが重要ですが、医療管理上の理由から自己管理は難しいものとなっています。すなわち、痛みが発生したときに即時レスキュー麻薬を飲むことが困難な状況です。そこで、我々緩和ケアチームの取り組みとして、医療従事者の意識調査を行い、上記の懸念を払拭する適切な管理プロトコルを策定しました。そのプロトコルに従い、一定の管理能力のある患者さんに自己管理の導入を行った結果、除痛率が大幅に向上しました。この結果を、口頭にて（筆頭発表者：佐藤淳也）タイトル『入院がん患者における麻薬自己管理プロトコルの有用性』として発表いたしました。



発表後、日本中のがん拠点病院でも麻薬自己管理が行われていないことから、日本におけるモデルとなる様この取り組みを推進して欲しいとのエールをいただきました。また、在宅医療に関わる医師からは、是非こういった取り組みが当たり前となる様に緩和医療を展開して欲しいとの叱咤激励を受けて帰路につきました。発表するにあたり、チーム内外の諸先生方に多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。
(原稿投稿：附属病院薬剤部 佐藤淳也)

口腔顎顔面再建学講座・歯科麻酔学分野 四戸 豊 講師が第40回日本歯科麻酔学会学術総会で 「中久喜学術賞」と「DENTSPLY Award」をダブル受賞しました

この度、第40回日本歯科麻酔学会学術総会（10月4日より3日間にわたり福岡県福岡市で開催）において、「中久喜学術賞」と「DENTSPLY Award」を受賞しました。「中久喜学術賞」は、創設者である中久喜喬先生の名を冠し、年間最優秀論文賞一編に対して授与されるもので、平成23年に論文発表した「Changes in Brain Regional Activity during Intravenous Sedation: A Functional Magnetic Resonance Imaging Study - Evaluation by a visual subject load -」で、そして、第39回日本歯科麻酔学会学術総会において発表した「fMRIによる精神鎮静法時における脳機能画像変化の検討 - 聴覚性課題負荷による検討 -」で「DENTSPLY Award」を受賞しました。両受賞内容ともに、静脈内鎮静法時にプロポフォルが脳におよぼす機能的な変化を検索するために、fMRIを用いて検討したものです。歯科麻酔の臨床に関して優れた研究と評価され、将来の発展性と今後の貢献が期待できるとされました。今後はこの研究を更に進め、歯科医学・歯科医療の発展に向けて尽力していきたいと考えています。受賞にあたりご指導、ご協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。



総会受賞会場アクロス福岡にて
(左)四戸 講師、(右)城 教授

重要なお知らせ

著作権法の一部改正に伴う違法ダウンロードの刑事罰化について

著作権法の一部改正に伴い、平成24年10月1日より違法ダウンロードが刑事罰化されました。

今回の改正では、私的使用の目的であっても、違法ダウンロードにより著作権等を侵害した者に刑事罰が科されることになりましたので、職員の皆様におかれましては、違法なダウンロード等を行うことのないようお願い致します。文化庁のホームページでは、著作権法の改正内容および違法ダウンロードの刑事罰化に係る Q&A が掲載されておりますので、下記サイトでご確認ください。

- (1) 平成24年通常国会 著作権法改正について http://www.bunka.go.jp/chosakuken/24_houkaisei.html
- (2) 違法ダウンロードの刑事罰化についての Q&A http://www.bunka.go.jp/chosakuken/download_qa/index.html

第103回大学報編集委員会

日 時：平成24年11月15日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、小山 薫、佐藤 仁、下山 佑、山尾 寿子、佐々木 光政、
昆 由美子、佐々木 忠司、畠山 正充、鈴木 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

編集後記

紅葉シーズン真っ盛りのなか中尊寺、毛越寺に行ってきました。あいにくの雨模様でしたが、境内はたくさんの観光客でにぎわっていました。平泉はご存じのように堂塔伽藍は失われ遺跡の多いところですが、このような遺跡を訪れる人はまばらですが、柳之御所遺跡や無量光院跡、観自在王院跡等の遺跡にも足を運び、八百五十年前の悠久の世界に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(編集委員 佐々木 光政)

岩手医科大学報 第434号

発行年月日 平成24年11月30日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2 - 8 - 7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 42

脳神経外科学講座

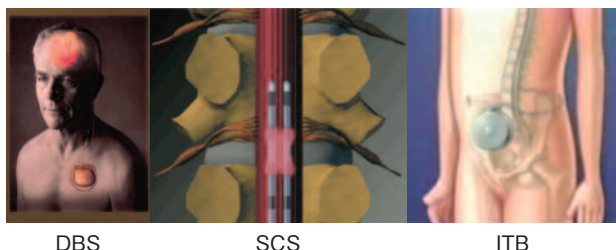
助教 西川 泰正



ニューロモデュレーション治療

ニューロモデュレーション治療とは機械を用いて中枢神経機能の修復・再建、あるいは人工的に神経機能を制御する治療法のことです。代表的なものとして脳深部刺激療法（DBS）、脊髄電気刺激療法（SCS）、バクロフェン髄腔内持続投与療法（ITB）などがあります（図1）。いずれも従来の治療法だけでは症状緩和が困難な症例に対し劇的ともいえる効果が期待できる新しい治療法です。

図1



DBSは脳の奥深くにある大きさ数ミリ程度の神経核に向けて微弱な電気を流すという治療法で、主にパーキンソン病などの不随意運動症を軽減させることを目的に行われます。さらに最近では欧米諸国を中心にうつ病や強迫神経症などの精神疾患にも応用されており大変注目されています。手術は目標とする神経核に誤差1mm範囲以内の精度で刺激用の電極を挿入します。そのため定位脳手術装置や専用のナビゲーションシステムなどに加え、本学では超高磁場MRIも応用し、より正確かつ短時間での手術を目標に行っています。

SCSは難治性疼痛に対する治療法です。痛みの原因は様々ですが、SCSが有効なのは求心路遮断痛と呼ばれる神経因性疼痛です。脊髄神経の背側を硬膜外から電気刺激することで疼痛部にしびれ感などを生じさせ、痛い感覚を違う感覚に置き換える治療法です。痛いところを手でさすれば痛みが軽くなるという経験を皆さんもしたことがあると思いま

すが、手の代わりに電気刺激感でさするイメージとすると解りやすいと思います。また、SCSは末梢循環改善効果も期待できますので、糖尿病や末梢性血管閉塞患者さんの手足の血流が改善し切断を回避できたという報告も数多くあります。

脊髄より上位に問題があり中枢神経からの指令が筋を支配する末梢神経に届かず、過剰に筋が緊張してしまっている状態が痙縮です。ITBはこの指令を司る神経伝達物質の一種であるGABAを腹部皮下に埋め込んだ専用のポンプから脊髄髄液内に流し込み、脊髄にGABAを直接作用させて筋の緊張を和らげる治療法です。脳性麻痺や脊髄損傷、脳卒中後の片麻痺など脳脊髄由来の様々な痙縮に対して効果が期待できます。

ニューロモデュレーション治療は劇的な効果を期待できる反面、その特殊性から行える施設は全国的にまだ少なく、とりわけDBS、SCS、ITBを1施設で全て行っているのは現在北日本で我々だけです。それを可能としているのが科の垣根を越えた連携です。主にDBSとITBは神経内科、SCSは麻酔科とチームを作っています（図2）。興味のある方はお気軽にご相談ください。

